



OSAKA, KANSAI, JAPAN  
**EXPO**  
2025



**FRANCE**  
EXPO 2025 OSAKA

## 大阪万博 2025 フランス館





フランスといえば思い起こされる印象、それは「愛」のイメージです。

芸術の中では喝采を沸き起こし、感動の涙を流させ、表現され、モニュメントでは絶えず挑戦して止まない強い願いとして具現化され、何世紀にもわたって国を愛する信条の中に受け継がれ、我々のサヴォワフェールと伝統の中で風景や自然に向けられている印象として、「愛」はそこが我が家であるフランスの中に存在します。

この愛の情熱は、ゆえに、しばしば精神の冒険の中でも昇華されてきました。それは私たち皆が—国家間の平和、この地球の未来、あらゆる社会における自由の保護—という同じ課題に立ち向かわなければならないからです。この冒険はこの先数十年は刻み続けられなければなりません。

大阪万博 2025 のフランス館に訪訪される方々に体験いただけるのは、このフランスの世界観、「愛」だけではなく、「勇気」と「対話」の賛歌なのです。

それは我が国の企業、アーティスト、科学者の提案を通じて様々な形で表現され、それぞれが独自のやり方で、フランスが共有する理性、美、進歩、自由を世界に向けて発信することを目指しています。この大きな望みを抱きつつ、愛のように普遍的な言葉を用いて、明日の世界に希望を届けるものとして。」

エマニュエル・マクロン (Emmanuel Macron)



© DR



© DR

「万国博覧会というのは、分かち合いと情熱の魔法のような瞬間です。それが日本が理想とする未来社会を世界と共に創り上げていくためにお招きいただいた大阪で開催されるならなおさらです。自らを模索するこの世界に、フランスは独自の価値感と感性で楽観的かつ意欲的に応えています。フランスは2800万人のご来場者に、他ではできない体験をご提供します。没入型のフランス館の建物は、「愛」の賛歌の具現化した芸術作品です。

このパビリオンは展示とエモーションの場です。さらに、イベントのサービスプラットフォームとしても、企業、専門家グループ、地方自治体、研究機関、文化機関等にフランス独自のダイナミックな機会をご提供します。フランス館は、世界にサヴォワフェールとコミットメントを発信するための特別な場をご提供します。

**2025年大阪に向けたフランスのメッセージを共に創り上げましょう!**

**ジャック・メール (Jacques Maire)**

COFREX社 社長

大阪万博 2025 フランス館総監督

# 目次

## 01

大阪万博 2025



6~12頁

## 02

フランス館



13~19頁

## 03

ご来場者へのご案内



20~29頁

## 04

フランスのパビリオンに  
参加する



30~37頁

01

# 大阪万博 2025



# いのち輝く未来社会のデザイン

日本人にとって、人間・動物・野菜・鉱物など、すべての物質は「命を宿す」ものです。大阪万博 2025 はこの信念を、「いのち輝く未来社会のデザイン」として万国博覧会のために定めたテーマを通じて表現しています。こうして、160カ国を超える参加国が、国連の「持続可能な開発目標」を念頭に、理想とする未来社会を共に創り上げるために招待されました。万博の来場者は、私たちの社会が未来においてはより調和と敬意に満ちた世界になるようにと希求するひとりひとりの個人の望みを支える「持続可能な社会」の共同デザインに参加することができます。



テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」には3つのサブテーマがあります。

## いのちを救う



健康を守り、自然災害と闘います。

## いのちに力を与える



人工知能とロボティクスの時代における教育と雇用を考えます。

## いのちをつなぐ



文化間の相互理解促進を支援し、情報通信技術 (ICT) の恩恵を受けたイノベーションを展開します。

# 大阪万博 2025 大規模国際イベント

+ 28 M

万人以上の来場者が見込まれる

160

カ国の参加国

9

の国際機関

2025年4月13日～10月13日  
大阪



夢洲(ゆめしま)へのアクセスは、大阪都心部から車または地下鉄で、約20分

# 1970年大阪から 2025年大阪へ

## 日本における万国博覧会の重要性

日本は、博覧会国際事務局 (BIE) の創設メンバー国のひとつです。  
日本が最初にフランスにおける万国博覧会に出展国として参加したのは、1867年のパリ万博の時でした。

以来日本は、この博覧会に対する情熱を育み続けており、1985年にはつくば国際科学技術博覧会、さらに2005年には愛知で国際博覧会を開催しています。2025年4月13日から10月13日まで、大阪で、万国博覧会の新たな歴史の1ページがいま開かれようとしています。

以来日本は、この博覧会に対する情熱を育み続けており、1985年にはつくば国際科学技術博覧会、さらに2005年には愛知で国際博覧会を開催しています。2025年4月13日から10月13日まで、大阪で、万国博覧会の新たな歴史の1ページがいま開かれようとしています。



# 日本、フランスの大切なパートナー

**世界で第3位の経済力をもつ  
日本は、アジアに進出および  
展開したいと望む企業にとっ  
ては欠かすことのできない目  
的地です。**

日本人消費者の高い購買力は、フランスの多くのブランドや企業に恩恵をもたらしています。産業やサービスのさまざまな業界が、日本国内で重要かつ多様な活動を展開しています。同様に、フランスにおける日本の投資は重要で持続的なものであるものの、他の国々と比べて伸び悩んでいます。したがって、フランスが日本において主要な経済パートナーとしての地位を強化するためには、例えば日本の「新資本主義」プロジェクトや、2050年までのカーボンニュートラルへの取り組みなどの機会を活用する必要があります。同様に、国際社会においても両国間の経済協力は、両国の企業の社会的責任への取り組みが一致する限り、前向きな成果をもたらすでしょう。

フランス館は、常に西洋の世界や習慣に興味を寄せてくださる人びと、特に日本人およびアジア人来館者に向けて発信していきます。6ヶ月間の開催期間中、フランス式イノベーションおよび我が国の低炭素再工業化戦略をアピールし、また日仏間のパートナーシップを促進することも、フランス館の目標のひとつです。



# 万国博覧会の中心にあるフランス

1798年9月19日にパリで開催した最初の「工業製品の国内博覧会」は、工業と農業が新しい飛躍を遂げた瞬間でした。構想を提唱したのはフランスでしたが、最初の国際博覧会は1851年にロンドンで開催されました。続いて1855年には国際博覧会がパリで開催されました。共和国建国100周年を祝う1889年の国際博覧会は、エッフェル塔の建設と時を同じくして開催され、工業におけるフランスの卓越性が示されました。

この国際的なアイコンは展覧会場の入り口部分を構成していました。歴史への敬意を表して、日本はフランス館を大阪万博 2025 の入り口に配置しました。

今日でも、万国博覧会は国々の卓越性のショーウィンドーであり、科学、技術、工業、芸術、文化の各分野における各国の成果をアピールする場であり続けています。フランスはこの世界的なランデヴーに一度も欠

かざり出席しており、国際舞台での重要な表現の場である万博は、世界的な大規模イベントと同様に、自国のパビリオンを囲むことによりフランス人の結集を強める機会でもあります。



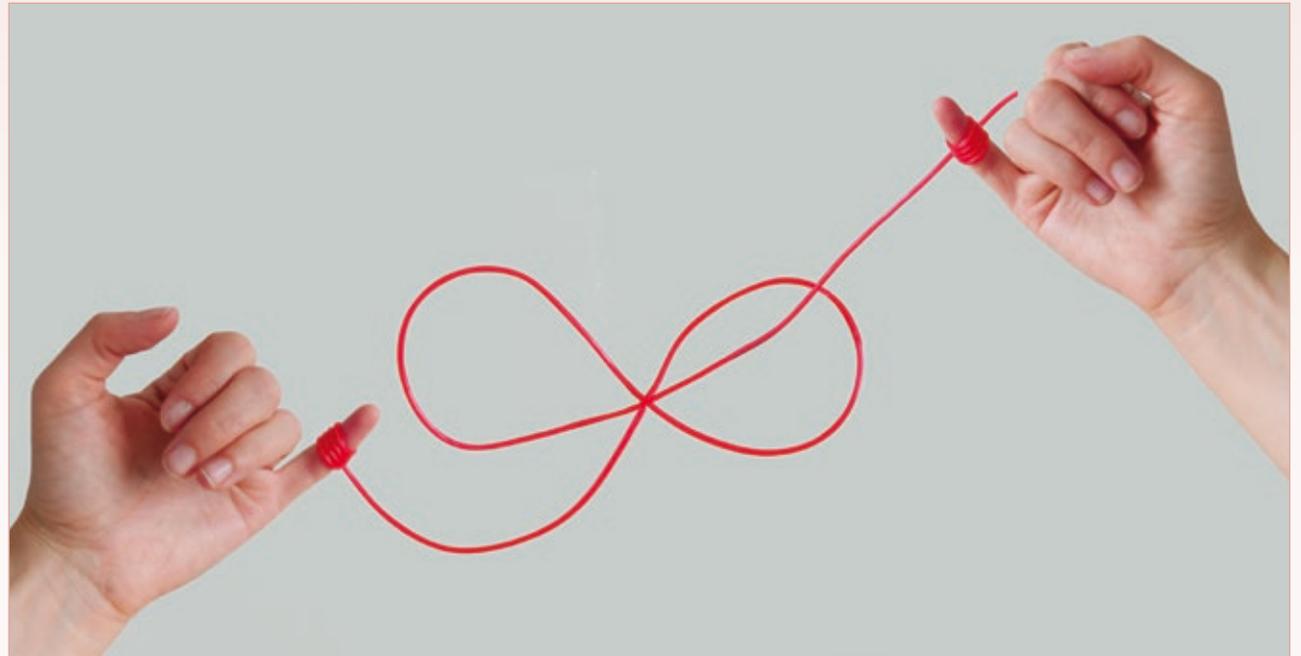
# 02 フランス館



# フランス館の赤い糸：「愛の賛歌」

日本文化には、互いの小指をつないで切れることなく目には見えない魔法の糸によってふたりが結ばれていることを想起させる「赤い糸の伝説」というものがあります。その赤い糸を通じて、フランス館は個人や集団の取り組みを促すことで社会や環境が直面している課題への答えを示したいと願っています。フランス館は、生きることの意味とそのもっとも美しい次元である「愛」に導かれた新しい未来のビジョンを、集団的で普遍的な想像の世界を通じて提案します。

パビリオンの中心で6ヶ月間の開催期間中、芸術、科学、テクノロジーが、特にこの愛に満ちた未来像を育むとともに、世界中からの来場者との創造的な対話を取り持つことになるでしょう。



© DR

## 自分への愛

自己愛は、教育、身体的および精神的健康の向上など、一人ひとりの能力を引き出すことに基づいています。またそれにより、豊かな人生をもたらし、各個人が自分の行動の意味を見つけ、私たちの文化遺産の源である美、サヴォワフェール、芸術といったすべてのものを享受することができるのです。

## 他者への愛

他者への愛はある種の「アール・ドゥ・ヴィーヴル(生活の芸術)」から始まります。コンヴィヴィアリティ、つまり美味しい食事を共にするということが、他者への愛についての誠にフランスらしいイメージを表すものと言えます。この愛は社会的なかわり方において人間的なものを取り戻すことにつながり、また隣人に対する日常的な、すべてのものを包摂する連帯感のうえに構築されるものです。

## 自然への愛

フランス館は、テクノロジーが自然に役立ち、自然を回復し、持続可能な方法で利用できることを示したいと考えています。自然への愛はまた、私たちの環境が、都会にあっても、幸福感とインスピレーションの源であるべきであるということを意味しています。

# 建造物のコンセプト

来場者のために最大限の体験をご用意することを追求しています。



愛の賛歌、赤い糸のフランス館は、来館者の体験全体の物語の骨格を形成しています。パビリオンの建築、展示スペース、B to B イベントや一般公開イベントなど、さまざまな場面で愛をテーマとした展示やプログラムを通して、来場者は五感を使ってユニークな体験を味わうことができます。

フランス館は、人間が環境の中でどのような役割を果たすべきかを問いかけることを意図しています。そして、一人ひとりが自分の未来に行動を起こせるようにする「エンパワーメント」、すなわち、能力と意欲を創出することを目標としています。

## フランス館の価値観

### サヴォワフェ



ル・フランス流儀のアール・ドゥ・ヴィーヴル（生活の芸術）が美食、科学、モード、デザイン、文化と持ち前のあらゆる多様性の中で調和しています。

### 大胆不敵



分断する世界で、現代の課題に直面するフランスはフランスのテクノロジーのエコシステムがもつ異例のダイナミズムを十分に活用することを選択しました。

### コミットメント



自律性、束縛からの解放、個人で責任を負うこと、集団的コミットメントが現代世界の課題に取り組むために行動することを可能にします。

フランス館はフランスのアイデンティティを強く表現しています。建物の堂々たるファサードは大阪万博 2025 のメインエントランスの真向かいにあります。洗練されたモダンなスタイルで、市民に開かれた劇場の舞台装置であるかのような雰囲気を出しています。また、来訪者を無限ループの通路で高みへと誘うことで神秘的な要素も残しています。

建物の左右の側面は完全にベールで覆われています。さまざまなスペースは、いずれもフランス館の持つ赤い糸で結ばれたコンテンツを提案するための場です

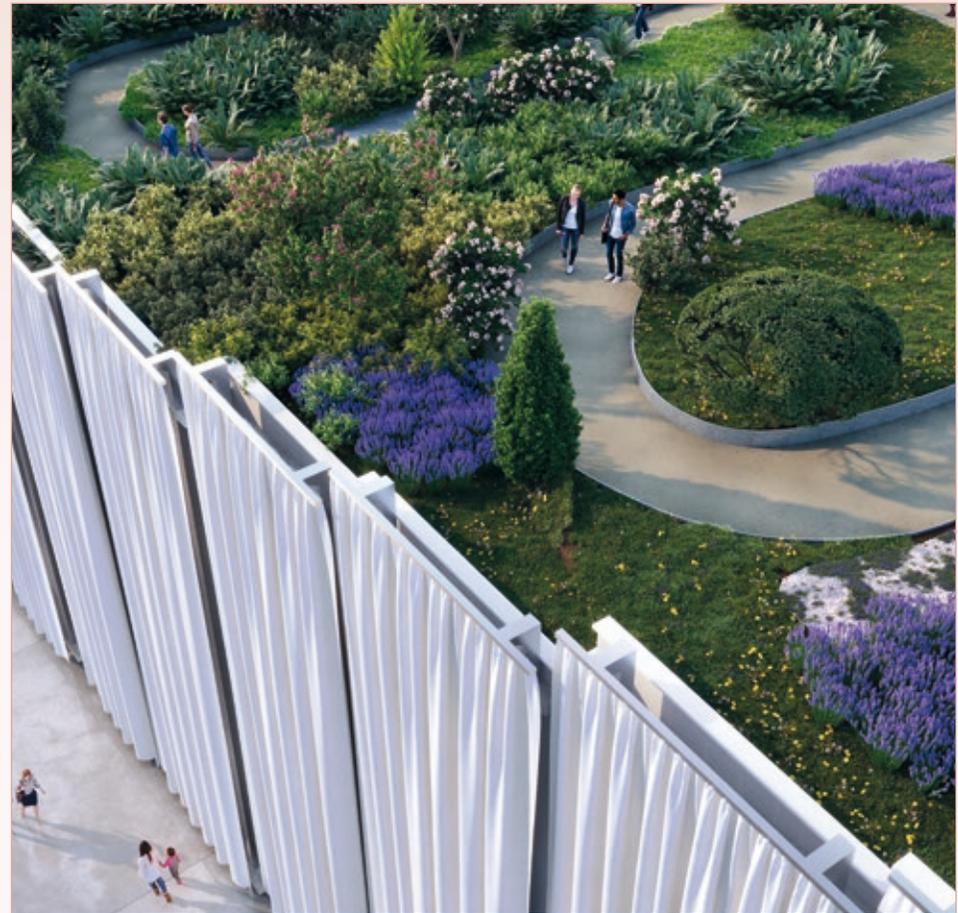
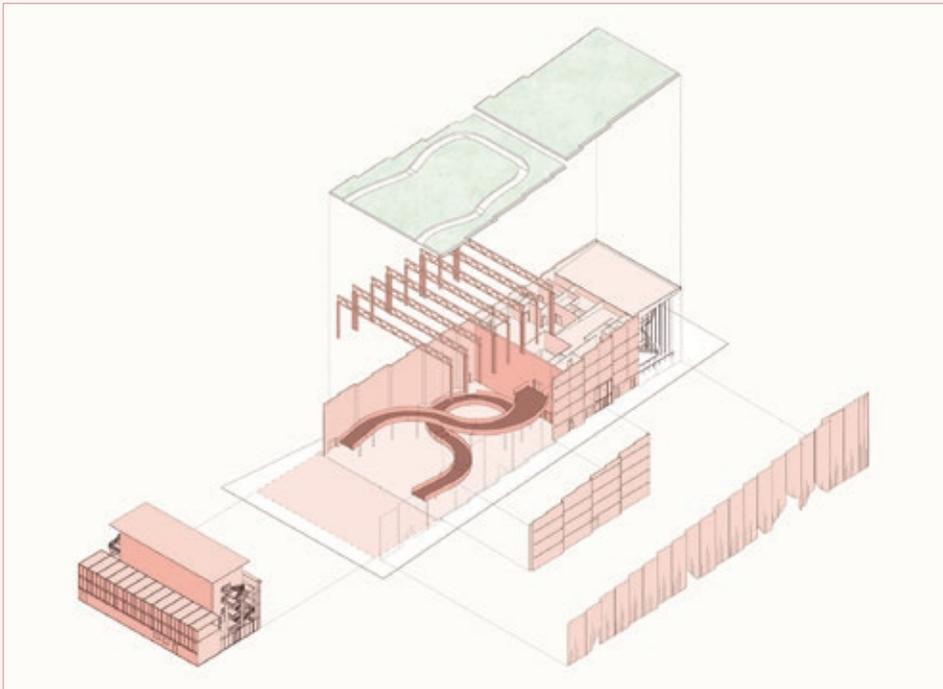
広大な庭園である屋根は、常設展の順路の一部として組み込まれており、イベントのサイト全体を囲んでいる木製の環、「リング」からも眺めることができます。



## 効果的なアプローチ

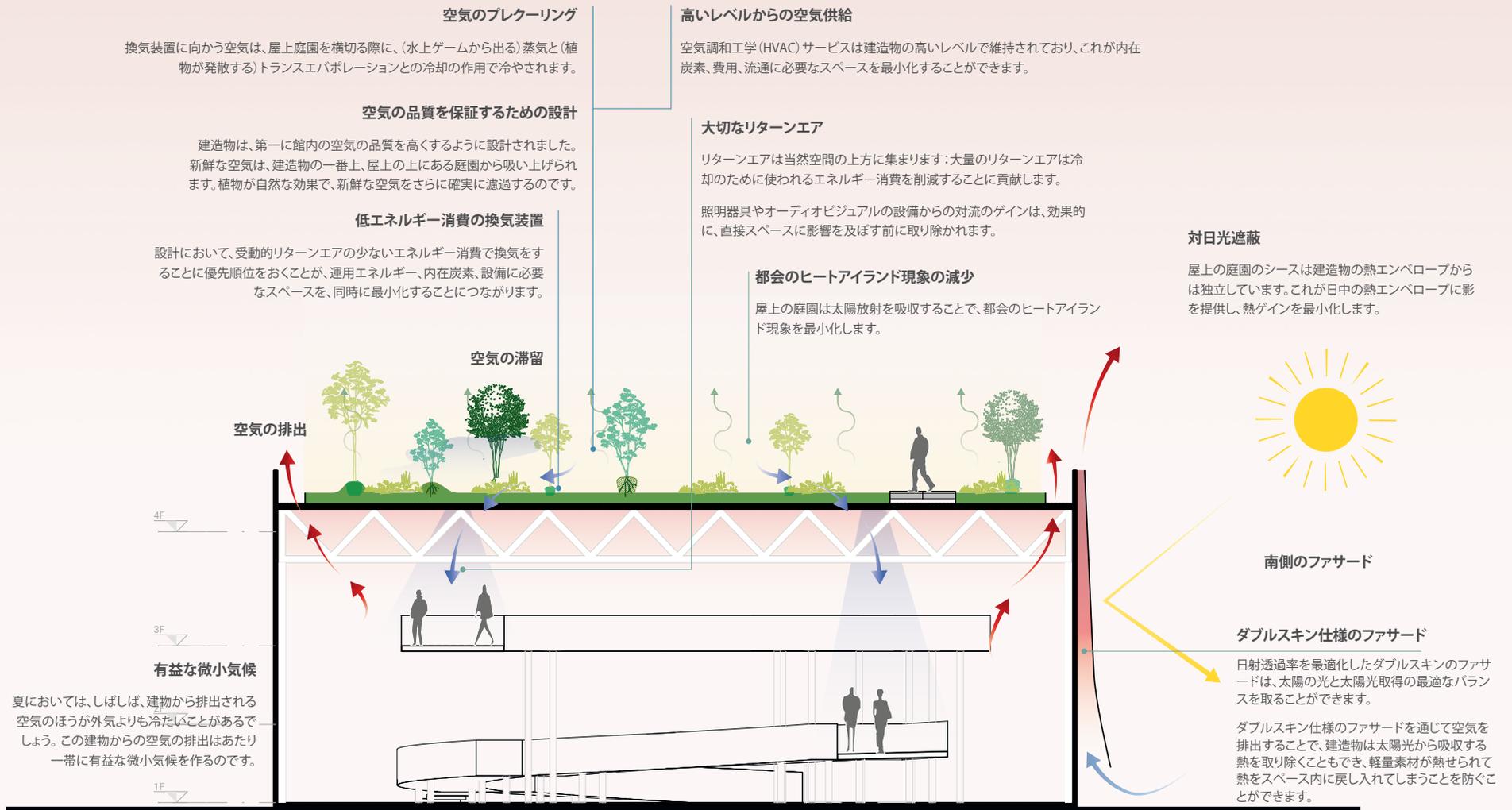
大阪万博 2025 のフランス館は、環境に配慮した設計の仮設建築物として計画されています。

金属製の構造はパーツとユニットにして再び組み立てることができるもので、後から他の建造物に使うことができます。パビリオンのオフィスとサービス・技術区域はすべて、再利用可能なプレハブのユニットで構成されています。



### 調節要素としての自然

屋上の庭園は常設展の極めて重要な構成要素です。この植物が植えられている屋根組みは微気候を作り出し、それが来訪をより快適なものにします。緑地スペースが雨水を最適に管理できることでしょう。プロジェクトのこの主要部分が、大阪万博 2025 において、都会の暑さからくるヒートアイランド現象の削減に貢献するでしょう。



## 高性能エンベロップ

外側のエンベロップは、美的景観に加えて、熱の伝達を最小にして、パビリオンの内部に対するサーモバリアとして機能します。

また、このダブルスキン外装は、自然通風と組み合わせられて、暖房と空調のエネルギー消費を削減します。

## 世界中からアクセスできるフランス館

2025年の大阪万博には、少なくとも300万人のフランス館来館者を含む2800万人の来場者が見込まれています。パビリオンのコンセプトはバーチャル形式での遠隔アクセスも可能で、すべての人びとに開かれており、特にこうした体験形式を支持する若者に向けられています。

没入感のある体験が、物理的なフランス館から、常設展、特定の企画展、ライブイベントで作り出されるでしょう。

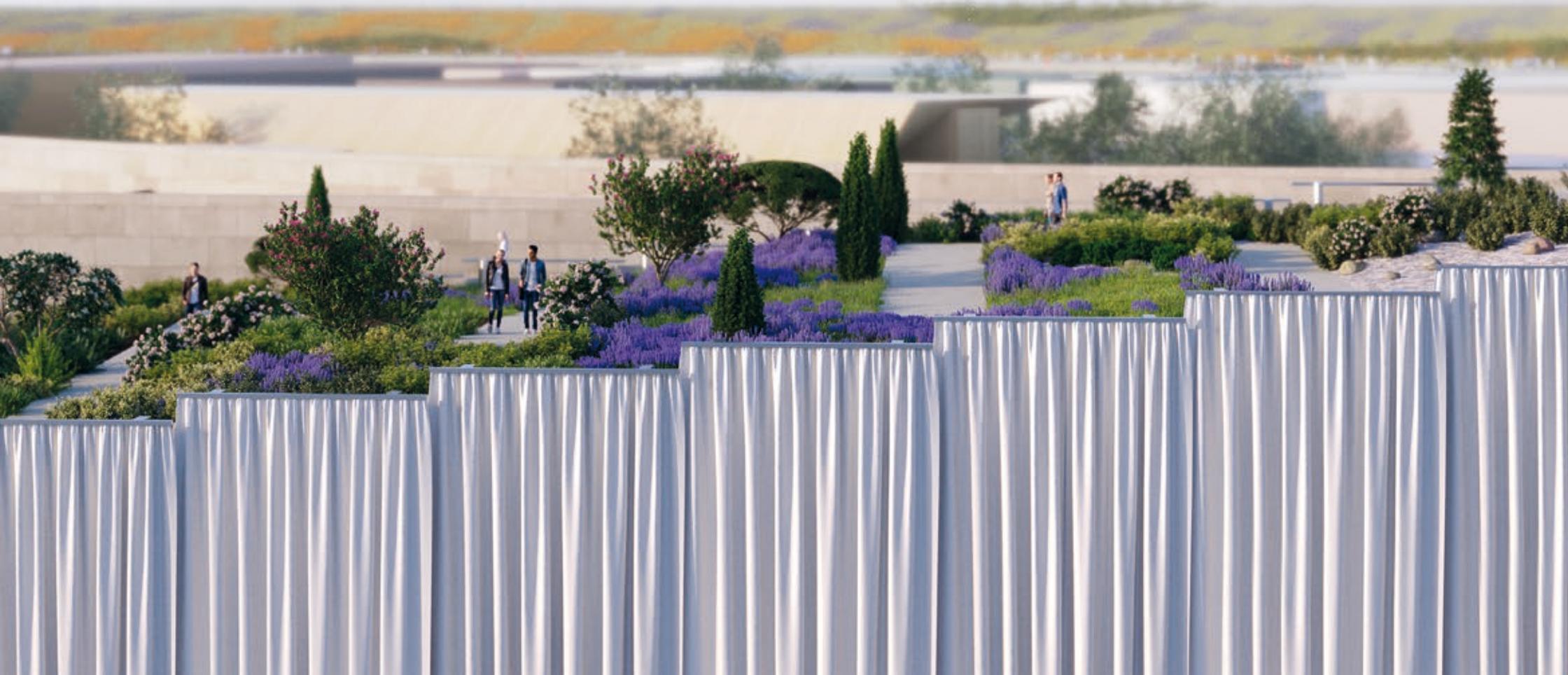
バーチャルビジットは電話、パソコン および／またはバーチャルリアリティーヘッドセットから接続でき、没入体験専用施設やご自宅をご利用いただけます。

バーチャルビジットでは自分専用のアバターを作成でき、他の来館者と出会ったり、フランス館の中にある展示、テクノロジー、作品についてより詳しくご覧になることができます。



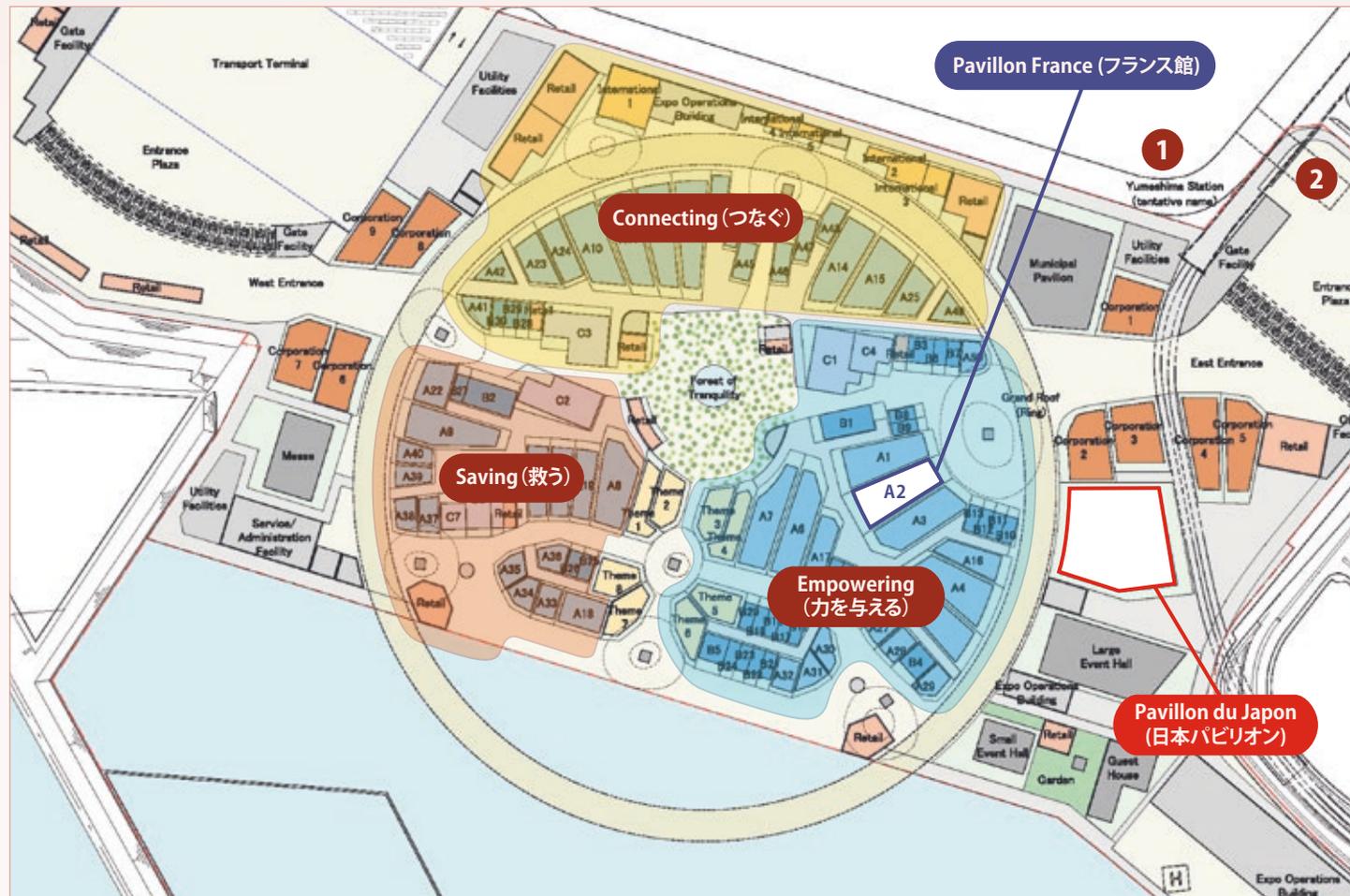
03

ビジター・エクスペ  
リエンス



# 最高のロケーション

フランス館は、大阪万博 2025 のエントランスから、まっすぐ中央に見通せる場所にあるという恩恵に浴しています。

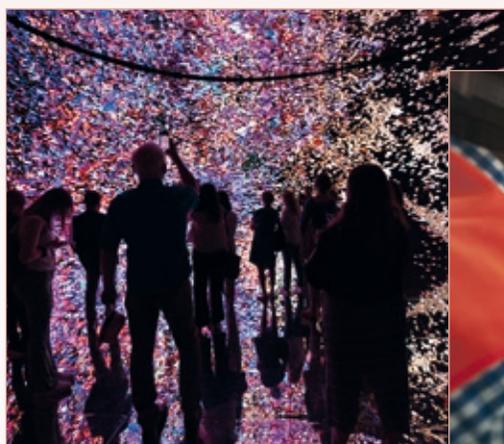


博覧会場前に止まる地下鉄駅の出口から見る事ができ、来場者の流れの合流点である「いのちに力を与える」ゾーンに位置し、フランス館の集客の魅力は、正面に位置する日本館に近いということで一層強まっています。

- 1 メインエントランス
- 2 地下鉄出口

# 来場者に4次元の体験を

フランス館は、他に追従を許さない体験と豊かで多岐にわたるプログラム編成により、強い印象を刻むことになるでしょう。



## 感動を呼ぶ

忘れがたい来場体験を創り上げることで、フランス館は大阪万博 2025 の大きな牽引力になります。

## 画期的である

フランス企業の提案に多様な方法で価値を与えます。

## 先見の明

社会の争点について、ビジョンを説明し、フランス国の、フランス企業や機関の持つ視座を提供します。

## 複数形の視点

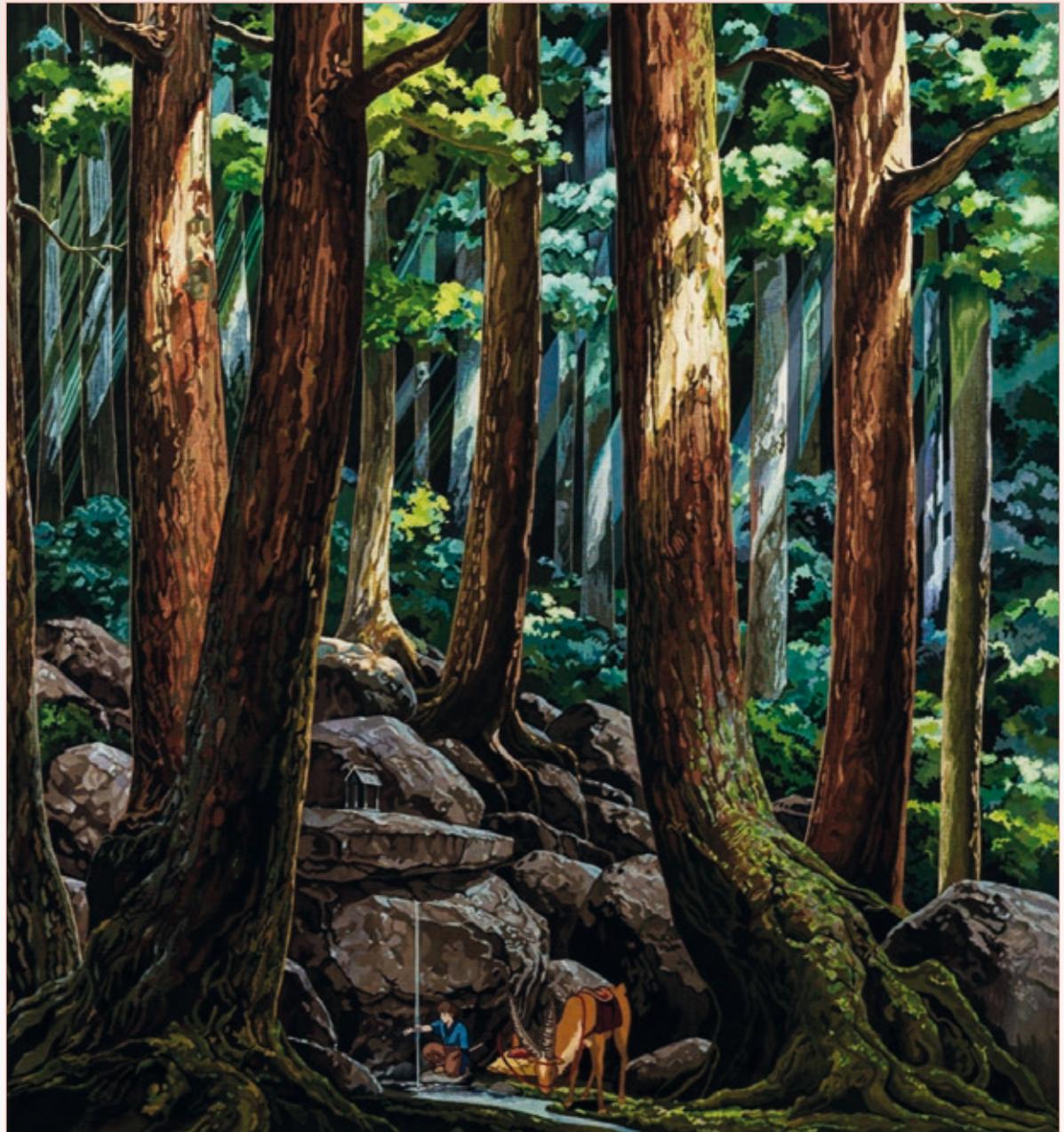
地方自治体や地方から発信された経験とサヴォワフェールを分かち合います。

# 来場者ご見 学順路

見学順路は入場待ちの列から始まり、来場者は常設展示の体験の準備をします。パビリオンの保護用天蓋の下から始まり、緩やかな傾斜のスロープを登ってから各自が順番に入場を許可されます。広いエントランスホールの中を進んでいくと、常設展示の導入部が巨大な「オービュッソンのタピスリー」の展示を使って次のように示されています。「自分にある悪魔の傷を癒すアシタカ」、宮崎駿の映画「もののけ姫」から引用した画像です。

常設展示は縫い目の無い経路の形を取った遊歩道で、3つの次元を包摂する無限の拍動なのです。これは自分を愛し、他者を愛し、自然を愛することです。

展示は高い位置にある、建物の内部の無限「ループ」を描写している遊歩道から始まり、屋根に出るまで続き、そこには舞台空間構成の一部となっている庭園があり、建物の中をさらに伸びていき、「ループ」の行程の後半部分を完成します。



パビリオンの着想と構成は、日に25000人以上が見込まれる並外れた来場数にも対応ができるものです。

## フランス館 (数字で見る)

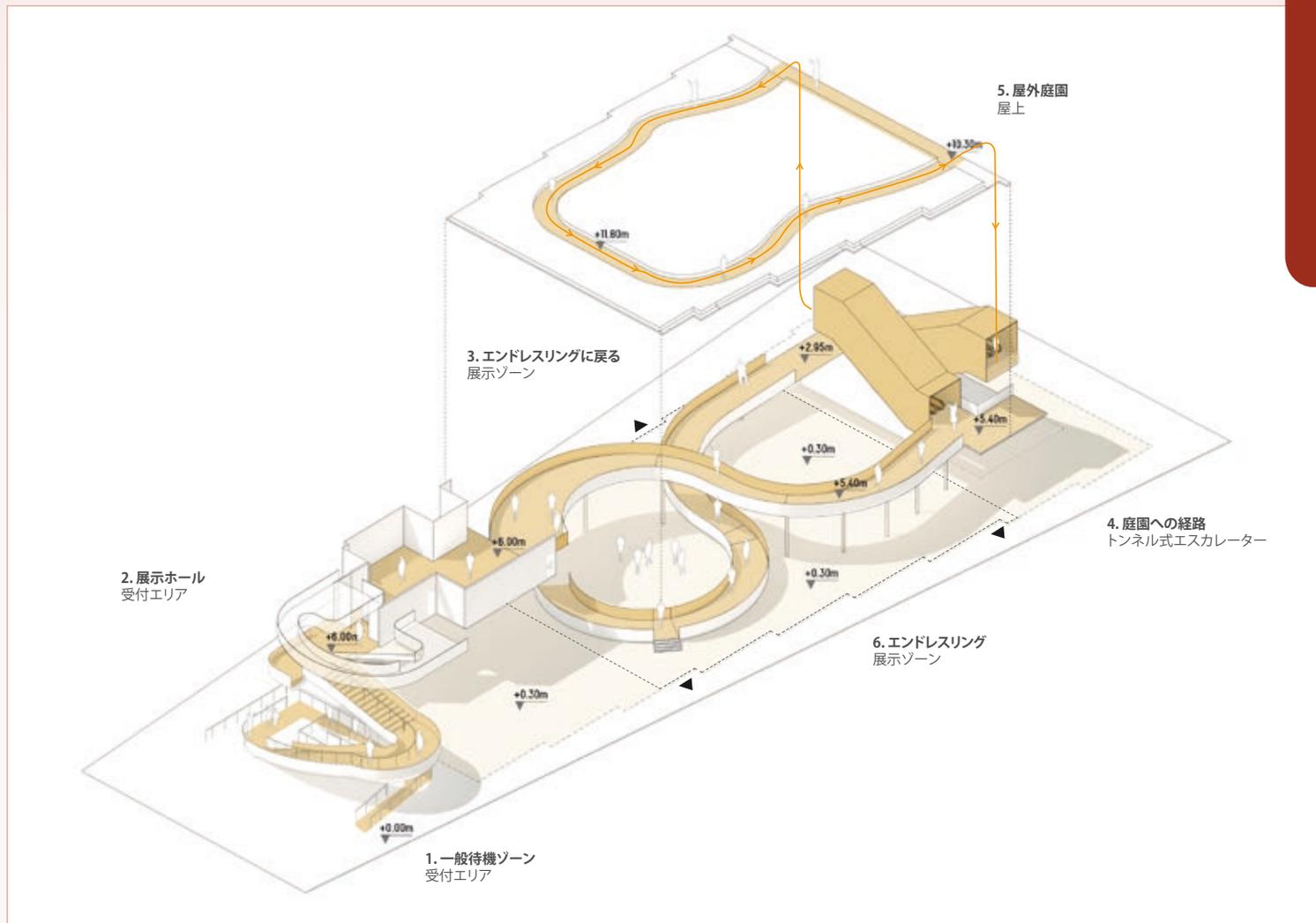


常設展：内部1000m<sup>2</sup>+ 外部 1000m<sup>2</sup>

企画展：200 m<sup>2</sup>

ビストロ：110 m<sup>2</sup>

イベント & VIPスペース：325 m<sup>2</sup>



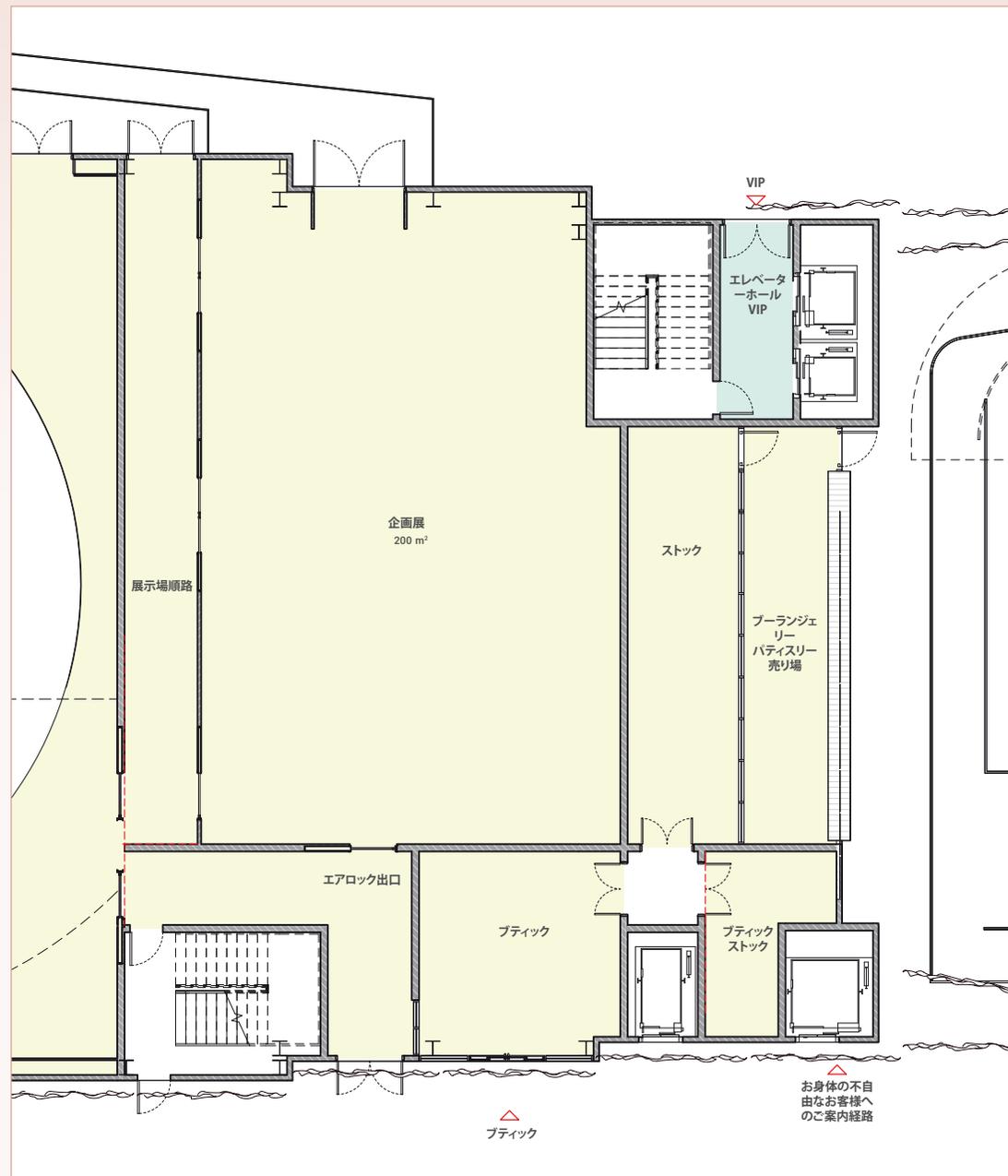
# フランス館のプログラム編成

6ヶ月間、フランス館では専用のイベントプログラムが開催されます。プログラム編成はパビリオンの編集スレッド「愛の賛歌」と、国連の17の持続可能な開発目標に基づいています。

## 企画展

6つの企画展が大阪万博 2025 の6ヶ月の間に、ひと月に1回の割合で続けて開催される予定です。

企画展では、今も生きているサヴォワフェールの展示と同時に伝承遺産の作品または現代の作品の展示、ならびに「ライブ」での没入型の体験の発表が、フランス館の1階の専用スペース内で可能となります。



## 約15のテーマ体系

約15のテーマ体系はこのプログラム編成の中心に刻み込まれており、約15のそれぞれがパビリオンの上に、講演、トーク、重要な証人、映写会、上演などの形でイラストになっています。

<p><b>気候</b></p> <p>気候変動に対して行動する</p> <p>2025年4月13日～4月30日</p>	<p><b>平等とパリティ</b></p> <p>全世界が平等な社会になる</p> <p>2025年5月1日～5月15日</p>	<p><b>持続可能な国土と都市</b></p> <p>レジリエンスの高い居住環境を考え、自然環境を汚染しないモビリティを開発する</p> <p>2025年5月16日～5月31日</p>	<p><b>海洋</b></p> <p>持続可能な開発目標のために、海洋の調査、保護、開発をする</p> <p>2025年6月1日～6月15日</p>
<p><b>健康</b></p> <p>健康で幸福に生きるための研究と技術革新に支援する</p> <p>2025年6月16日～6月30日</p>	<p><b>宇宙</b></p> <p>宇宙開発で新たな挑戦に立ち向かう</p> <p>2025年7月1日～7月15日</p>	<p><b>クリエイション</b></p> <p>芸術的才能に気づき、増進させ、分かち合って拡散させる</p> <p>2025年7月16日～7月31日</p>	<p><b>平和</b></p> <p>共に生きる道を振興する</p> <p>2025年8月1日～8月15日</p>
<p><b>教育</b></p> <p>すべてのひとが知識と学識を入手できるよう保証する</p> <p>2025年8月16日～8月31日</p>	<p><b>消費</b></p> <p>モラルにかなった生産と消費の形態を目指す</p> <p>2025年9月1日～15日</p>	<p><b>生物多様性</b></p> <p>生きているものの保護と回復</p> <p>2025年9月16日～9月30日</p>	<p><b>スポーツ</b></p> <p>みんな身体を使いスポーツをするよう促進する</p> <p>2025年10月1日～10月13日</p>

## 特別な開催日

- ・女性／男性の平等の日：2025年4月13日
- ・女性／男性の平等の日：後日発表
- ・フランス国民の祝日：2025年7月14日
- ・フランスの日：後日発表
- ・閉会式：2025年10月13日

## 17の持続可能な開発目標



# 来場者へのサービス

このスペースは、一般の方もプロの方も、誰でもアクセス可能で、そこではフランス流儀のアール・ドゥ・ヴィーヴル(生活の芸術)に高い評価がなされるでしょう。

## ブティック



## ビストロ



## ブーランジェリー・パティスリー



04

フランスのパビリオン  
に参加する



# フランスの卓越の技に 評価を与える

大阪万博 2025 は、明日の社会づくりのための専門性と革新性の実験場となることを目指しています。

フランス館はフランスの当事者の才能とサヴォワフェール(企業、公的または民間の当事者、地方自治体、公共団体、非営利団体など)のショーウィンドーであり、国際的な舞台で際立つものです。

フランス館は、フランス国によって投入された経済の推進力を次の項目に関して有効に使います。エネルギーの統治権、新世代のカーボンニュートラルな再工業化の発展の見込める国家。人口の高齢化のような現代の科学および社会的な挑戦に応じている国家。「文化的な創造性を持つ産業 (Culture and Creative Industries (CCIs))」に関するアール・ドゥ・ヴィーヴル(生活の芸術)の世界的リーダーとしての自国の地位に資本投下をしている国家。



© DR



## またとない機会

パピリオンに参加する、これは世界中の来館者に、フランスが持つ大胆不敵さ、サヴォワフェール、共同体意識の価値を伝えるという野望です。当館はパートナーと共に、文化・教育・科学・技術・経済の分野に及ぶ、野心的で革新的なプログラム編成を組み合わせ、構成しています。

フランス館はまた、公共および民間のあらゆる当事者のサービスにおける実用的なツールでもあり、これはフランスの主要企業でも、スタートアップ企業、基金、機関、団体と同様に一新するものです。この比類なきショーウインドーは、各国からの来場者に向けて、フランスの当事者を積極的に売り込んでいく絶好のチャンスなのです。

パートナー契約はスポンサー（後援）またはメセナ（奨励）の形を取ることが可能です。

メセナ：

税額控除  
60%



オフセット  
25%

残余コスト  
15%

メセナの範囲内での税額控除 無償の支援（「一般税法典」第238条の2）

- 寄付金額の60%に当たる税額の軽減（メセナ企業の取引総額の1000分の5までの範囲で）。
- オフセット評価額は寄付金額の25%まで。

スポンサー：

- 直接利益を目的として提供されたサポート：企業のブランドイメージを促進し短期で経済的効果を求めるもの。
- 付加価値税（TVA）が課される。
- オフセット評価額はスポンサーとして払い込んだ総額と同額

# パートナーになる

パートナーになるとは、貴社の企業イメージをフランス館の価値に結びつけて、「持続可能な開発目標」のテーマにまつわる博覧会のプログラム編成についてのメディア報道の恩恵を受けるとのことです。



大阪万博 2025 でフランス館が運営される6ヶ月を通じて、企業と担当者は、常設展、企画展、約15のテーマ体系を介すると同時に、パビリオンのイベントを通じて、各自がもつさまざまなサヴォワフェールに価値を生じさせることができるでしょう。赤い糸の力と建築と展示の統一感により、経済的な価値のアピールは、一般の人々に魅力的な物語として刻まれます。

## カスタマイズされたパートナーシップ

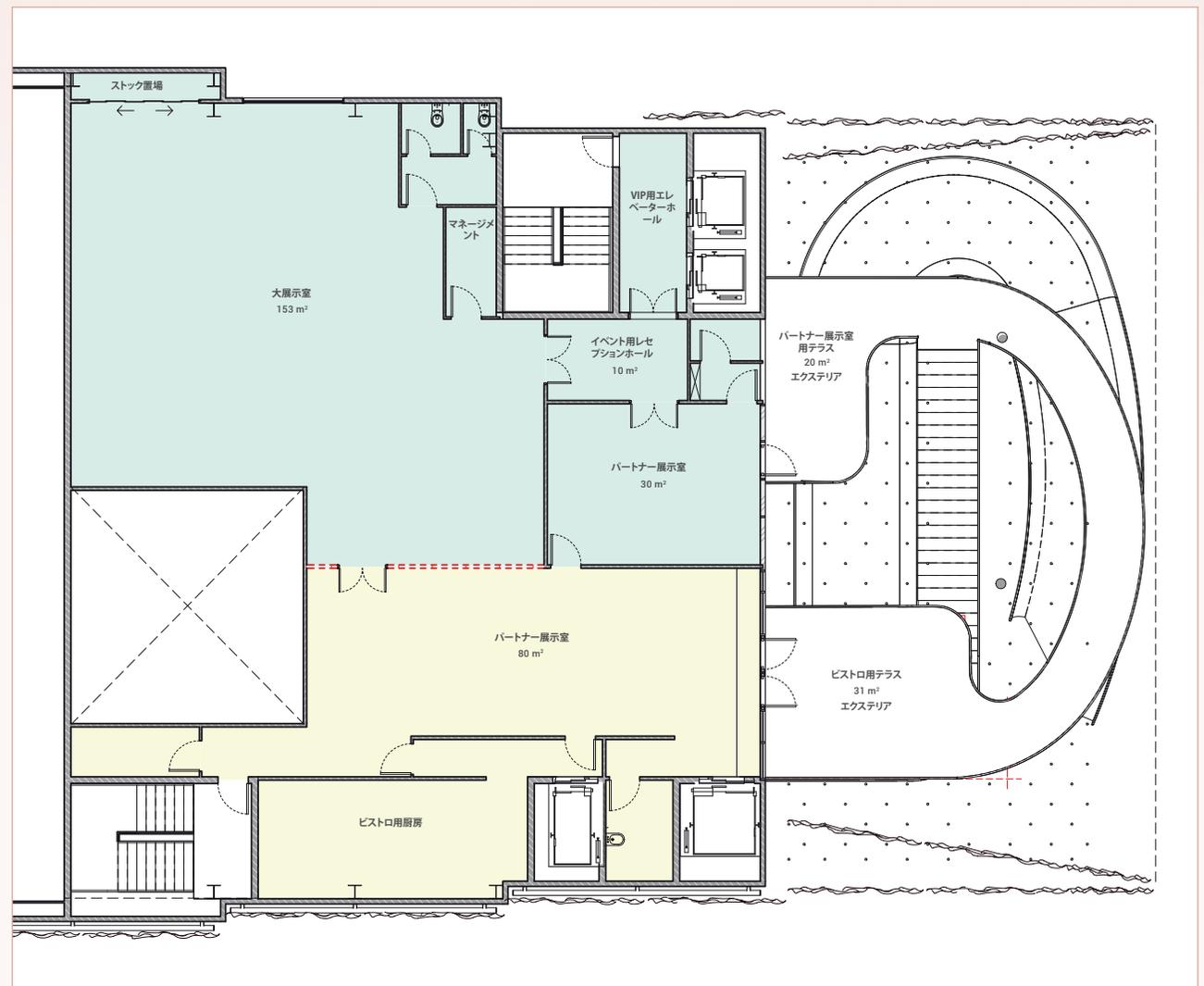
フランス館のチームは、パートナー各位と、大阪万博 2025 へのそれぞれの参加の内容と形式を明確にしています。パートナーは、それぞれのもつ専門家としての能力に応じて、万国博覧会の前と開催中のフランス館の生態系に参加しています。それぞれのもつ条件に応じて（企業、機関・団体・地域関係者、学術界、一般収益機関など）、パートナーは貢献度の高さによってカスタマイズされた報酬を得ることになります。この報酬は、制度的なもの、コミュニケーションに関連するもの（各種コミュニケーション媒体での表示度合）、イベントに関連するもの（特権区域およびパビリオンのイベントへのアクセス、招待など）の内のひとつまたは複数であることが可能です。

# イベントに関するスペース

独自のイベントの企画を希望するパートナーやビジネス関係者向けに限定された機能とデザインをもつスペース「コーポレート (corporate)」は、専用のスケジュールに応じてアクセスすることができます。

オフィシャルパートナー専用の「ラウンジ (lounge)」は、イベントがある6ヶ月の最初から最後まで、パートナー同士の気軽な交流にご利用いただけます。

これらのスペースはすべて、シェアすることができます。



# スケジュール／各行程

2023

- **5月26日**  
フランスが公式参加契約に調印
- **8月7日**  
パビリオンの建設と舞台空間的構成  
についての契約に調印

2024

- **1月**  
フランス館の全容についての発表
- **春:**  
フランス館の建設工事の開始
- **最終四半期**  
フランス館の建設工事の終了

2025

- **第1四半期**  
内装設備
- **4月13日**  
万国博覧会の開会とフランス館の開館
- **2025年10月13日**  
万国博覧会の閉会とフランス館の閉館



2018年1月に設立されたCOFREX(フランス博覧会公社)は公営のSAS(単純型株式資  
本会社)です。

COFREXの使命は、世界および国際博覧会にフランスを参加させる準備、企画、実行を  
することです。

COFREXの創設は、先行する経験に支えられることを可能にする持続可能なプロジェク  
トに含まれており、これは最適な方法と経費で将来的にフランスが世界および国際間  
の博覧会に参加することを組織するためです。COFREXは、フランスのイメージと経済  
的な魅力のまわりに集う公共と民間の当事者間パートナーシップの論理の中に位置し  
ています。

COFREXは日本に以下のような子会社を所有しています。フランス共和国パビリオン  
大阪万博 2025 (Republic of France Pavillon Osaka 2025)。



## 連絡先

ソフィー・ブレンクール(Sophie Braincourt)

パートナーシップ部 部長

sophie.braincourt@cofrex.fr

ミリアム・エスピノ・アルヴァレス (Miriam Espino Alvarez)

パートナーシップ部 副部長

miriam.espino.alvarez@cofrex.fr

## 住所

COFREX

77 boulevard Saint Jacques 75014 Paris

France (フランス)

フランス共和国パビリオン 大阪万博 2025 株式会社

Mazars Japan株式会社気付、〒107-0052 東京都港区赤坂

1-11-44 赤坂インターシティ 5階

www.cofrex.fr

www.franceosaka2025.fr

 France Osaka 2025

 @franceosaka2025



**COFREX**  
COMPAGNIE FRANÇAISE  
DES EXPOSITIONS



### 写真提供:

3頁: フランス共和国大統領

4頁: オリビエ・ロレ (Olivier Roller)。

13頁: ジャスティヌ・エマール (Justine Emard)。22頁: 自分にある悪魔の傷を癒すアシタカ、ジヨ・オービュッソンタピスリー製織アトリエ、国際タペストリー都市

(Cité internationale de la tapisserie) © 2022、映画『もののけ姫』の画像から © 1997 Studio Ghibli-ND。28頁: セバスチャン・ディ・シルヴェストロ (Sébastien Di Silvestro) / INMA

1頁、2頁、12頁、14頁、15頁、16頁、17頁、19頁、23頁、24頁、30頁 31頁: コールデフィー (Coldefy)、Carlo Ratti Associati とリモンドジャパン株式会社